

トキめき鉄道と北越急行の相互乗り入れなどで運動強化へ

「在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会」の第6回総会が24日、直江津で開催されました。主催者代表挨拶の中で仲田紀夫会長はこれまでの会の活動と役割を振り返り、「我々の活動がなかったなら、えちごトキめき鉄道(株)の方針も違ったものになったかもしれない」とのべるとともに、「初乗り運賃、ダイヤ、北越急行との連携などまだ不透明なところがある。他地域の会と連携して頑張りたい」とのべました。

田村雅春幹事長は昨年度の活動報告と今年度の活動方針を説明しました。

活動報告の中では、沿線住民アンケートの実施や県への働きかけなどによって並行在来線運賃水準を5年据え置きとする成果があがった一方

で、「初乗り運賃」についてはいまだ明確になっていないなどの課題が残っていることを明らかにしました。また、えちごトキめき鉄道や北越急行との懇談の内容も明らかにしました。えちごトキめき鉄道との懇談で島津社長はダイヤ編成に関して、「朝夕の通勤・通学を重視、最優先とし、日中は新幹線接続を多くしたい。『くびき野』『北越』は新幹線との接続有線が望ましい」などのべたといいました。北越急行との懇談会で、大熊社長が「北陸新幹線開業後は『はくたか』待ちがなくなるためにダイヤに余裕が出る。電車が各駅停車しても、現在の快速の時間内で走れる。ダイヤ本数は現行を維持したい。スーパー快速(越後湯沢駅まで60分弱)を直江津から出



在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会

す」などとのべたことを明らかにしました。その他にも興味深い話がいくつも出ました。

今年度の活動方針で打ち出された内容は、えちごトキめき鉄道と北越急行の相互乗り入れの実現、優等列車の継続運行など大事なことがいくつも含まれています。私も今後、十分調査をし、直江津・頸城の会と連携した取り組みを展開したいと思います。

子どもの医療費助成事業市町村実施状況 2014年4月1日現在				
	対象年齢			
	入院		通院	
	子ども2人までの世帯	子ども3人以上いる世帯	子ども2人までの世帯	子ども3人以上いる世帯
関川村	高校卒業まで		高校卒業まで	
粟島浦浦	高校卒業まで		高校卒業まで	
出雲崎町	高校卒業まで		高校卒業まで	
湯沢町	高校卒業まで		高校卒業まで	
十日町市	高校卒業まで		高校卒業まで	
津南町	高校卒業まで		高校卒業まで	
加茂市	高校卒業まで		中学卒業まで	高校卒業まで
阿賀野市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
胎内市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
五泉市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
刈羽村	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
村上市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
新発田市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
聖籠町	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
阿賀町	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
弥彦村	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
田上町	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
小千谷市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
魚沼市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
南魚沼市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
妙高市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
上越市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
佐渡市	中学卒業まで	高校卒業まで	中学卒業まで	高校卒業まで
糸魚川市	高校卒業まで	高校卒業まで	小学校卒業まで	高校卒業まで
燕市	中学卒業まで	高校卒業まで	小学校卒業まで	中学卒業まで
柏崎市	小学校卒業まで	中学校卒業まで	小学校卒業まで	中学卒業まで
新潟市	中学卒業まで	高校卒業まで	小学3年生まで	高校卒業まで
見附市	中学卒業まで	高校卒業まで	小学3年生まで	高校卒業まで
三条市	小学校卒業まで	中学校卒業まで	小学3年生まで	中学卒業まで
長岡市	小学校卒業まで	中学校卒業まで	小学3年生まで	中学卒業まで

左の表をご覧ください。日本共産党県議団がまとめた県内市町村の子ども医療費助成事業の取組状況の一覧です。

子ども医療費助成事業 全体の底上げに向け県はもっと積極的支援を

市町村によってかなり差がありますね。全部の子どもについて卒業まで助成する自治体は上越市を含めて23自治体になりました。このうち、高校卒業まで助成しているところは6自治体です。

町村からの要望に押される形で、1人、2人世帯への拡充を実施した場合の「補助」を打ち出しました。関係者からは県の補助基準そのものを引き上げ、全体の底上げをとの声が強く出されています。

さて、県の制度はというと、子どもが1人ないし2人にたいする助成が、入院は小学校卒業まで、通院は3歳未満と低いままでです。今年度は私たちの働きかけや市

はしづめ法一の活動レポート

No.1659 2014.6.1
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三〇七回 六四年ぶりの再会

「おまん、いま、どこにいるが。お客さんだよ」そう言つて電話をくれたのは地元、代石集落の「丸木屋」(屋号)のシュウちゃんです。お客さんが誰かを聞いてびっくりしました。六四年前、私をとりあげてくれた助産師のフミ子さんだったのです。

「お客さんだよ」と言われた時、私は訪ねてきてくださったのはフミ子さんだと直感しました。というのは、フミ子さんの姪にあたる浦川原区の久代さんから住所を教えしてもらい、私が書いた本を送つておいたことがあったからです。でも、手紙をくださったことがあつても、わざわざわが家を訪ねてきてくださるとは……。

私は電話を受けた時、高田からの帰り道で、ラーメン屋さんに寄つてタンメンを注文したばかりでした。大急ぎで食べて、わが家へと急ぎました。わが家に着くと、玄関先には母と近くに住む従姉の他に、見知らぬ二人の女性の姿がありました。そのうちの一人は背が少し丸くなつていますが、黒い帽子が似合う素敵なおばあちゃんでした。一目でフミ子さんだとわかりました。もう一人の女性はフミ子さんの娘さんです。お母さんを車に乗せてわが家に連れてきてくださったのでした。

すぐにフミ子さんのそばに行き、手を握りました。私をとりあげてくださった助産師さんは母よりもいくつも年上の人だと思ひ込んでいたのですが、思つていた以上に若い人でした。実際、年は母よりも二つ下だとか。手を離すと、フミ子さんは「まあ、握手までしてもらつて……。どうも、どうも。初めてお目にかかります。宮川と言います。宝の文章、書いてくんなさつてありがたうございました」と一気にしゃべりました。

フミ子さんについてはだいたい前に母から聞き、本にはこんな話を書きました。私が生まれたばかりの頃のある日、私の体温が下がり、足が冷たくなってきて、危険な状態になったときのことでした。母の実家のある旧旭村竹平で開業していた医者の内山先生がすぐに来て、私の足にコッソリと注射を打ってくれたといいます。そして、内山先生と一緒にだつた看護師でもあるフミ子さんが母に声をかけたというのです。「行火(あんか)よりもおまさんの体で赤ちゃんあつたためなつた方がいいんじゃないかね」と。

旧旭村藤尾出身のフミ子さんは当時、助産師の資格を取つたばかりで、赤ちゃんをとりあげたのは私が第一号でした。それだけに心配してくださったのでしようね。もちろん、私の記憶にはまತ್ತく残つていないのですが、注射やフミ子さんのアドバイスが効いたのでしよう、おかげさまで無事回復することができたのでした。

フミ子さんは結婚後、旧吉川町上川谷に住み、その後、柏崎市へ移住しました。柏崎に出てもう四五年経つそうです。まだふるさとが恋しくて一年に一回はふるさとに戻つてきているとのことでした。柏崎へ出た人は多く、最盛期には旭会をやる七〇人から集まったこともあつたそうです。母とフミ子さんは同郷なので共通の話題も多く、「隠居」(屋号)の弘夫さんのことや「山ノ脇」(屋号)の話が次々と出ました。

保育園に通う子どもさんの迎えがあるということでフミ子さんたちがわが家で滞在した時間はわずか一五分ほどでした。母がお土産をもらったお返しに「ふうきの甘煮」とお菓子のゼリーを渡そうとすると、フミ子さんは、「おまさんばつかしや、いいてがに。かえつて迷惑だこてね」と遠慮がちに受け取りました。そして別れの時間がやってきました。フミ子さんに乗せた車が走り出すと、母もフミ子さんも声を掛け合いました。「お元気で、達者でね」「またね」。この二人、姉妹のように見えました。

議長に佐藤敏議員、副議長には江口修一議員

臨時議会が5月22日開かれ、議長、副議長選挙などが行われました。

議長選挙には佐藤敏議員と本城文夫議員が立候補しました。所信表明では佐藤議員が、「公平、公正な議会運営に努め、議会報告会では誰でも気軽に参加できるようにしたい。市民目線で市民の要望に応えていきたい」とのべました。本城議員は、「北陸新幹線開業を迎え、まだ合併10年を迎え、上越市は課題が山積している。市民目線を大切にした議会運営をする。開かれた議会をつくるためにさらに情報公開を進めたい」とのべた後、大会派の数の力で議会人事が決まっていくことに懸念を表明しました。投票結果は佐藤議員が19票を獲得し当選、本城議員は12票でした。日本共産党議員団は議会改革や談合疑惑解明などで申し合わせをした本城議員に投票しました。

副議長選では江口修一議員と

上野公悦議員が立候補。所信表明で江口議員は、「あくまでも議長の補佐役。目で見てわかりやすい議会運営を追求する。議員はあくまでも市民の奉仕者でなければならない」と訴えました。上野議員は、「議会は、市民から負託された市民の暮らし・福祉・安全をしっかりと守るために存在することは言うまでもない。いささかもこの原則を外れることは許されない。不断に議会活性化に関する取り組みを進めていきたい。ガス水道局所管の本支管工事の入札談合疑惑については、6月議会までに公正取引委員会の動きが見えないときは、議会内に地方自治法第100条に基づく調査特別委員会を設置していく」ことなどを主張しました。結果は江口議員が21票、上野議員が9票で江口議員が当選しました。

私は今度、厚生常任委員会、行政改革調査対策特別委員会に所属することになりました。



副議長選で所信表明する上野議員。後ろは佐藤敏新議長。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	5月21日(水)	5月28日(水)
上越南消防署	0.040	0.030
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.046	0.050
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.053	0.043
名立分遣所	0.050	0.053